

2022年度
京都文化博物館総合展示

没後七十年

窈本一洋

ま
つ

も
と

い
ち

よ
う

優美なる日本画の世界

2022年
6/4(土)—7/31(日)

THE
MUSEUM
OF KYOTO

京都文化博物館
〒604-8183 京都市中京区三条高倉
TEL.075-222-0888 FAX.075-222-0889
www.bunpaku.or.jp

文化庁
京都へ

※新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、
予定を変更する場合もございますのでご了承ください。

[休館日] 月曜日休館、祝日の場合はその翌日
[入場料金] 一般500円(400円)、大学生400円(320円)、
高校生以下は無料 ※()内は20名以上の団体料金
[開室時間] 10:00～19:30 (入場は19:00まで)
[会場] 京都文化博物館 2階総合展示室
「京の至宝と文化」ゾーン

主催：京都府、京都文化博物館

《女人高野》(部分)、1923年、京都府蔵(京都文化博物館管理)

没後七十年 案本一洋 優美なる日本画の世界

まつもと いちよう

案本一洋（八九三―一九五三）は、近代京都で活躍した日本画家です。本年は、一洋の没後70年の年にあたります。これを機に、本展では京都府コレクションを中心に、約30点の作品、資料から一洋の画業を振り返ります。京都の染織図案を営む家に生まれた一洋は、京都市立美術工芸学校・京都市立絵画専門学校（現在の京都市立芸術大学）を卒業後、山元春挙に師事し、その画

塾・早苗会で研鑽をつみました。文展、帝展を中心に活躍し、大和絵に学んだ優雅な人物画を特徴とする作風で知られるようになります。一九三二年頃からは現代婦人像を描いた作品を発表、また風景画へと展開します。師の春挙が没すると、同門の川村曼舟に師事して、早苗会の中核的な画家となりました。一洋の描き出す優美な日本画の世界をお楽しみください。



《壬生狂言の楽屋》1915年、第9回文展出品作



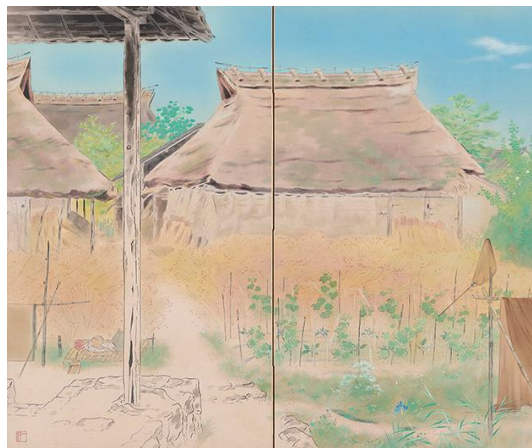
《女人高野》1923年、大阪毎日新聞社主催日本美術展出品作



《酒典童子》1929年、第10回帝展出品作、京都市立医科大学蔵



《月下清韻》1930～40年代



《湖畔晴日》1942年、早苗会試作展出品作



《髪》1931年、第12回帝展出品作、個人蔵

所蔵表記が無いものはすべて、京都府蔵（京都文化博物館管理）である。

関連イベント

学芸員によるギャラリートーク

日時：6月17日（金）、7月1日（金）、7月15日（金）

*午後2時から展示室内で行います。（30分程度）
事前申込み不要、当日の入場者に限ります。

入場料金（税込）

一般500円（400円）、大学生400円（320円）、
高校生以下無料 ※（ ）内は20名以上の団体料金

※障がい者手帳などをご提示の方と付き添い1名までは無料。
※学生料金で入場の際には学生証をご提示ください。
※上記料金で2階総合展示室と3階フィルムシアターもご覧いただけます。
※新型コロナウイルス感染症の今後の状況により、予定を変更する場合がございますのでご了承ください。

交通案内

地下鉄「烏丸御池駅」下車、5番出口から三条通を東へ徒歩約3分／阪急「烏丸駅」下車、16番出口から高倉通を北へ徒歩約7分／京阪「三条駅」下車、6番出口から三条通を西へ徒歩約15分／JR・近鉄「京都駅」から地下鉄／市バス「堺町御池」下車、徒歩約2分

